

コミュニケーション支援スタートセット（取扱説明書）

作製目的とコミュニケーションの流れについて

本媒体は、脳損傷や進行性の神経・筋疾患によって、話したり、書いたりといった伝えるコミュニケーションが困難になった当事者本人と、意思疎通を図る際に役立てるための媒体です。

簡易なコミュニケーションの方法とは、質問を交えた、道具を使わないコミュニケーションから始めます。支援者（会話パートナー）の質問に対して、当事者本人の口の動き、うなずき、まばたき、表情の変化など、支援者が読み取ることによって、意思疎通を図ります。そこから、当事者本人の意思を確認する場合には、文字・絵・シンボルをボードやノートなどに配置した道具を用意する必要があります。当事者本人の指さしや視線などを利用し、その内容を支援者が読み取ることによって、意思疎通を図ります。

詳細なコミュニケーションを実現するためには、パソコンや音声出力装置のような電子機器を使用します。身体のわずかな動きを利用し、スイッチや特別なキーボードを操作する、画面へタッチする等により、機器を操作し意思疎通を図ります。その場合は、現物を見て、操作性を確認して選択する機会が多いため、機器を紹介し、試用する機会を提供している保健福祉事務所（保健所）に御相談ください。

どのような方法が良いかは、対象者の症状・障害の程度・ニーズ、支援者のニーズによっても変化します。コミュニケーションが困難となった方との意思疎通の手段を検討する際に、本内容を是非活用していただければと思います。

付帯内容

1 コミュニケーション支援早見表（両面）

本表は、コミュニケーション手段の選択方法を図式化した早見表です。病状の進行に伴う身体機能面の課題（横軸）と、当事者本人の望む生活上のニーズ（縦軸）から意思を伝える様々な手段をまとめたものです。対象となる方には、障害が生じた早い段階で、意思表出の手段を確立し、病状に合わせて有効な手段を選択できるように支援する必要があります。当事者及び家族の方と相談する場面や、支援者で支援方法を検討する、さらには共有する際に活用するものです。

黄色で囲まれた部分は意思を伝えたいというニーズに対応する簡易なコミュニケーション手段ですが、本内容には文字盤と透明文字盤のサンプルを付帯しています。

2 文字盤

指や足先、軽い棒を使って文字を指し示します。口にくわえた棒で指し示す場合もあります。文字盤には、震えがある方の誤操作に対応するように、文字表全体に凹凸をつけた枠付きのものもあります。必要の際は、保健福祉事務所（保健所）に御相談ください。

3 透明文字盤

視線とまばたきを使って文字を選びます。使用方法の詳細は裏面を参照してください。

透明文字盤について

◆ 事前の確認事項

- 文字を使用するため、ことばを理解する能力がありますか？
- 対象の方は、何らかの合図を出せますか？
- 視力または聴力の状態はどうか？

◆ 利点と注意点

- 身近にある材料で手軽に作成し、すぐに使い始められます。
- 持ち運びが便利です。
- 支援者がいないとコミュニケーションが成立しません。
- 使い慣れるまでには、少しだけ練習が必要です。

◆ 使い方（視線）

- 1 対象の方の目から30cm～60cmくらいの位置に文字盤を持ちます。
- 2 対象の方：伝えたい言葉の文字をみつめます。
支援者：対象の方と支援者の目が一直線になるように文字盤の位置を変えます。
- 3 支援者：対象者がみつめていると思われる文字を読み上げます。
対象の方：合っていれば、目をつぶるなどYESの合図をし、次の文字をみつめます。
- 4 対象の方：間違っていれば、言いたい文字を見続けます。
支援者：合図がない場合は、文字盤の位置を調節し、正しいと思われる文字を読み上げます。

その他・問合せ先

お役立ち情報

宮城県リハビリテーション支援センターでは、コミュニケーション支援に関する幅広い資料を作成し、より詳細なコミュニケーション支援の手段についてもホームページ上で紹介しております。こちらを是非活用していただければと思います。（以下は一部）

- コミュニケーション支援サポートブック基礎編
- コミュニケーション支援サポートブック応用編
- 喉頭摘出者のためのコミュニケーションマニュアル
- 聞こえにくい方へのサポートBOOK

作製・問合せ先

平成30年8月作製

宮城県北部保健福祉事務所（大崎保健所）

健康づくり支援班 ☎0229-87-8010